

「銀河県」 岩手に寄せて

岩手県は『銀河県』である。そうなった起源はもちろん宮沢賢治の代表作「銀河鉄道之夜」にある。「銀河鉄道の夜」をはじめとする賢治の世界は、時代を超えて現在も多くの人に愛されており、岩手を訪れる多くの人が賢治や「銀河鉄道の夜」の世界に思いを巡らせている。

また、岩手には「銀河鉄道の夜」から派生して、「銀河」を冠した様々なブランドが存在する。例えば、私も好きな「銀河高原ビール」は岩手発の地ビールとして全国的に広く知れ渡っているし、岩手県のアンテナショップは「いわて銀河プラザ」である。さらに、岩手の鉄道や列車にも「IGRいわて銀河鉄道」や「SL銀河」というように銀河が冠されている。

これ以外にも岩手県には「銀河」とつくグッズや店舗、イベントが無数にあり、「銀河」は岩手県のイメージアップと経済活性化に大きく貢献しているといっていだろ。

さて、岩手県は実は銀河の研究においても、世界的に重要な地である。私が勤務する国立天文台水沢地区（岩手県奥州市）では、電波望遠鏡を用いて日夜、天の川銀河の真の姿を解き明かすための観測を行っている。三角測量により天の川銀河の地図を

描き出す、VERA（ベラ）プロジェクトである。

VERAでは奥州市に加えて、鹿児島県薩摩川内市、小笠原諸島の父島、それに沖縄県石垣島の計4カ所に設置された直径20mの電波望遠鏡を結び、10万という視力で天の川銀河の星々を観測している。国立天文台の水沢はその拠点機関として、50名弱の職員が天文学の研究に携わっている。

水沢における「銀河」の観測には、実は長い歴史があることを御存じだろうか。

国立天文台水沢地区は、北緯39度8分上に世界6カ所の観測所を設置する「国際緯度観測事業」の一観測所として、1899年に設置された。その目的は地球の回転のふらつきを測定することであったが、その精密な計測のために天の川銀河の多数の星々を毎夜観測していたのである。宇宙への思いが強かった宮沢賢治も緯度観測所に何度か足を運んでおり、その作品には緯度観測所が登場するものもある。

その後、緯度観測所は80年にもおよび観測を終えると、1988年には国立天文台へと改組し、現在は天の川銀河を主な研究対象として、VERAプロジェクトを推進している。また、最近では銀河の中心にあ

る巨大ブラックホールの研究にも取り組んでいる。

このように長きに渡って銀河を観測し続けてきた水沢の天文台は、2年後の2019年には設置から120周年という節目を迎えようとしている。

賢治とのつながりも含めて、水沢の「天文台」は岩手の地において長きに渡り「銀河」と関わり続けてきた。現在私たちが進めている研究は基礎科学であり、世の中の経済活動に直接的に結びつくものではない。しかし、「銀河」に関する最先端の研究成果を岩手から世界に向けて発信することとは、『銀河県』岩手のイメージアップに貢献できるものと期待している。

120年近く我々が銀河の観測を岩手で進めてくることができたのも、地元岩手の方々様々な支援があつてのことである。「銀河」の研究を通じて地元へのささやかな恩返しをすることも、さらに次の120年を見据えて岩手から銀河を追い続けていきたい。

岩手の関係者の方々にも、国立天文台水沢地区の活動に一層興味を持っていただき、今後とも我々の活動を応援していただければ幸いである。



国立天文台水沢VLBI観測所 所長

本間 希樹